

第 6 回中原区区民会議課題調査部会会議録摘録

- 1 開催日時 平成 25 年 1 月 25 日 (月) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 45 分
- 2 開催場所 中原区役所 5 階 505 会議室
- 3 出席者
委員 板倉部会長、藤嶋副部会長、稲富委員、梅原委員、反町委員、塚本委員、寺岡委員、橋本 (満) 委員

事務局 小野副区長
企画課 今井課長、江口担当係長、倉見担当係長、深谷職員、大崎職員、野並職員、
地域振興課 日向課長
社会空間研究所 中島、栗林

- 4 議 題
(1) 「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流」に関する調査検討について (公開)
(2) その他 (公開)
- 5 傍聴者 なし

- 6 会議内容
(1) 会議録確認委員の選任
梅原委員を選任した。
- (2) 審議テーマ「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流」に関する調査検討について

事務局 検討の方向性の確認、資料説明。

藤嶋副部会長 川崎大師のすごろくが、すごく良く出来ている。いろんな分野が載っていて、分かりやすい。カルタも中原で作ったものがあるが、大人向けである。

稲富委員 すごろくが地図として使えたらよいと思うが、子ども達がこれで遊ぶかというところ難しいところである。子ども達の間で、カルタは流行っているのだから、伝える効果はあると思う。作るのにお金がかかるのが課題。紙芝居もダウンロードして使えればよいのではないか。

事務局 ボランティア団体が、パワーポイントでカルタをつくって、プロジェクターで映して子ども達に楽しんでもらうのをテレビで見たことがある。動きがついて、面白い。

稲富委員 ホームページからダウンロードして家でそのまま子どもに読んであげても良いのではないか。

藤嶋副部会長 エコの紙芝居で活動している所がある。その時になかはらの歌を歌ったりし

ている。

反町委員 紙芝居について、1つは紙ベースのものを作った上で、配信ということになるのか。データだけだとさみしいと思う。以前、お話したと思うが、私の活動している団体の方で、「防災テーマ」の紙芝居を作った。イベントで使う事を前提として作ったので、絵も遠くから見やすい様に大きめに作っている。そのノウハウがあるのと、枠も紙芝居に合わせて大きく作っている。一度壊れたが、先日の子ども未来フェスタで防災紙芝居を使って頂けるということで、枠を頑丈に作り直した。枠はそのまま使いまわせるのではないか。

事務局 紙芝居は、作るノウハウを持っている人と紹介する情報を持っている人が一緒に作るというのではないか。区民会議で主導していただく。紙ベースのものを1つ作って、あとはデータで配布するものを作る。

梅原委員 紙の媒体を使うのは、幼稚園ぐらいまでだと思う。

事務局 枠の大きさは、どれ位なのか。

反町委員 A2サイズぐらいである。紙芝居の課題としては、イラストを描いていただける方がいるのかどうか。

事務局 区民のイラストレーターもいると思う。公共の事業だとボランティアベースの話だから、ちょっとした金額で受けてくれる人がいるのではないか。

梅原委員 紙芝居には、ストーリーが入っているのか。

反町委員 防災がテーマで、地震編と津波編の2つを作った。苦労したのは、イラストレーターを見つけること。結局、イラストのプロを目指している学生にお願いをした。区民の方、子どもさんに親しまれるような本格的な絵ではなくて、親しみを感じるようなものを皆さんは求めていると思う。

寺岡委員 イラストが主体の方が親しみやすい。

事務局 登戸区画整理の中の商店街で、シャッターにペイントをしている。「なまずん」というキャラクターがある。専修大学の学生がボランティアで描いてくれている。専修大学の情報としては、地域に出て行って、地域と協働事業を沢山行っている。今年、専修大学の方から中原区と何かコラボできないかという話がきている。今年度は、フロンターレさんとコラボしているのが1つと商店街とコラボしているものが1つ。平間の商店街の方で専修大学とコラボしている。

塚本委員 何をしているのか。

事務局 「平間銀座見本市」というのをやっている。学生側の提案で、タッチラリーといって、パスモ等でラリーが出来る。商店街のお店をまわりながらタッチポイントをチェックしてもらい、最後に東日本の物産品とか市の物産品を配る。専修大学のインターンの方の発案で導入をした。ちなみにフロンターレの方は、等々力緑地で幾つかのポイントを設定して、等々力緑地を周りながら、ポイントをチェックしながら全部まわってクイズに答えると、フロンターレのチケットがもらえる。そういう形で、等々力緑地とフロンターレを広めていく。親子50組参加で、12月1日に開催される。

塚本委員 これは、すぐいっぱいになったのか。

事務局 すぐではなかったが、いっぱいになった。

事務局　　そういう意味だと、紙芝居のノウハウが有る団体や中原区の歴史・文化の情報のストックがあるところと大学とが連携すると作れるのではないか。

藤嶋副会長　市民ミュージアムでも、明治大学やいろんな大学と小学生が集まって、新丸子とか二ヶ領用水の模型の家を作ったりしている。

稲富委員　カルタを企業で作ったが、あの時も写真を持ってきて、無地の台にシールプリンターで印刷をした。

事務局　　カルタも紙芝居も出来そうである。

塚本委員　カルタの目的としては、文化的なものを知ってもらう事なのか。

事務局　　知ってもらう事とそれを使って交流してもらう事。子どもや親子が中心になってしまうが、紙芝居は皆が集まって見るし、カルタはゲームが出来る。川崎のカルタは大判に広げて、市内でイベントを行っているし、みやまねカルタも大きく広げてイベントで使っている。中原区には、等々力緑地など広い場所があるので行えるのではないか。

稲富委員　先日市民祭りの一角でカルタ取りを行ったら親も来ていたので、親と子の交流にもなる。

事務局　　例えば、区民祭などでそういうものを活用して、催しをすることは出来る。中原区のいろんな歴史だとか、文化を知ってもらう。紙芝居にしてもカルタにしても実行委員会を立ち上げてやっていかないと難しいと思う。なお来年は、市制90周年であることから作成する時期も良いタイミングではないかと思う。

橋本委員　来年の市制90周年とかけたら、タイミング的には良い。

塚本委員　中原のいろいろな場所に足を運んでもらうような工夫が欲しい。小杉駅周辺で言うと200～300円払うとすごく遠くまでいける。そうではなくて、歩いてこんな近い所にこういうものがあつたよと魅力を伝えたいと思う。

事務局　　こういう取り組みがあるからこそ、情報を発信する。区内の新・旧住民の方の交流をメインに情報発信をしていく。

寺岡委員　小学校の文化祭などで、多摩川の情報などを集めて発表している。小学生に書いてもらった言葉を使うなど利用価値があるのではないか。

事務局　　カルタや紙芝居の中に子どもの言葉を入れる。カルタ・紙芝居、具体的には両方作るのかどうかという事はあるが、アイテムとして作って地域交流を図って、皆で魅力を知っていく。

板倉部会長　このあと運営部会にあげていくので、よいのではないか。

事務局　　そのために大事なのは、実行委員会になってくると思う。いろんな団体が入って一緒に作るという事は、コアな交流になると思う。

板倉部会長　もう一つ中原区の魅力講習会の開催というのがあるが、中山委員が行っている。これについて、どう考えるか。

稲富委員　今、開催されている魅力発信講座に参加されている方が先程見えたが、若い方がいらっしやらないようだ。そこをどうするかが課題だと思う。例になるかどうかかわからないが、ものづくりでうちの企業でもテクノロジーホールというのがある、良い所を登録して公開するような仕組みがあるが、直接来ている方が多い。伝え方

として上手く伝えていない。ここにあるのだから行きたいねと思わせるような方法を考えるべきである。テクノロジーホールで技術の公開をしているが、それ以外にも栗木山王山という山を自然保護するという意味で、社内で人を集めて竹を切ったりしている。帰りに門松を作るなど工作をしている。こういうのも社内に閉じこめておかないで、公募して地域を知ってもらうきっかけにもなる。企業内のものをどう開いて出すかというのも一つの魅力の感じさせ方かと思う。私は、労働組合の会社側の代表にいるので、各企業が行っている事を出し合って、それを知らしめることは出来る。そこに行くとか何かいいものがあると思うと見に行くと思う。

事務局 資料に「中原区の魅力発見ワークショップ」というのがあるが、それぞれ知っている情報がまちまちなので、いろいろな人が集まってワークショップを開き、中原区には何があるのかというものを出示してもらい、話し合ってもらおうと色々な情報が集まってくる。それを整理することによって、中原区の魅力が見えてくる。次のステップが考えられると思う。

梅原委員 今の話は次にある、なかはらブランドの設定になると思う。

事務局 いろいろな取組につながっていくと思う。

梅原委員 企業とか、商店街は、生産物を出したいので、メイドインなかはらの認定をしたらどうか。

藤嶋副部長 中原のマイスターをつくったらどうか。

事務局 川崎でもブランド認定事業をいろいろやっている。これは、細分化されていて、分類ごとに決められている。工業やものづくりなど中原区からも選ばれているものがある。

藤嶋副部長 応募してもらって、その中から選んでも良いと思う。

事務局 魅力が沢山あるので、一回出し合ってみるのもよいのではないか。

梅原委員 なかはらブランドのスポンサーを募集したらどうか。北九州市が、来年市制50周年で、川崎市と同じように工業地帯であるが、現在北九州市は、人口が98万人と減っている。何が原因かということで、いろんなことを始めた。例えば若松区というところがあって、海岸の場所を埋立地にして、区の面積が2倍になっている。その埋立地で風車を沢山建てて、市の電力を供給している。ソーラーパネルを沢山並べている。市内のプラスチックや紙の回収や電話機を回収してその中のレアメタルを収集し、一大再生工場が出来つつある。その時にメイドイン北九州の品物を作り出している。川崎と似ていると思う。

事務局 北九州市は、政令市の中でもシティセールスを一生懸命やっているようである。魅力を出し合う、たくさん人が集まるワークショップを開催することによって、次のステップが望め、ブランドに繋がる、企業に取り組みを知ってもらう。市民活動団体が何をおこなっているのか知らないという話も出ていたので、ワークショップを行うことで、交流も図られると思う。

梅原委員 北九州では、ブランドを認定するというので、沢山スポンサーがついている。民間の力を利用しようという考え方である。なので、なかはらブランドを設定するという考え方は良いのではないか。

藤嶋副部長 企業の活動ということでは、府中街道のところで東京応化工業というのがあって、あそこに財団があり、100万円出している。川崎市の理化学のものに限って資金を出している。理科とか科学に関係していないとだめであるが、東京応化工業の財団は、一般に配っている。

事務局 ワークショップをする中で、こういう取り組みをする人がいることを説明してもらったらどうか。

藤嶋副部長 企業の方も自分のところを活用してもらって、喜ぶのではないか。

梅原委員 なかはらブランドをPRすると良いと思う。

事務局 難しいのは川崎市では、いろいろなものを選んでるので、市の取り組みとのバランスが難しい。

藤嶋副部長 一緒になっても、市の方はあまり関係ないと思う。

事務局 ワークショップというよりも発表してもらう機会が必要なのか。

梅原委員 どちらかというソフト的なものが良いのではないかと思う。北九州市をみると同じように工業都市だが、今も製鉄所があるし化学会社もある。川崎市は、コンピューター会社が出てきている。ソフトウェアが鈴なりにいるので、それが発達の要因である。その分野も今、東南アジアにシフトしている。音楽のまちとかもやっている。ソフト関係に力を入れていった方がよいのではないか。

事務局 かわさき市民活動センターで市民活動フェアというのをやっている。市内の企業のCSRという地域貢献の取り組みを行っている場がある。

梅原委員 知らない事が多いので、知ってもらうことが大事であると考えてる。

稲富委員 企業でなくても商店でも良い。

梅原委員 先程のカルタとか紙芝居もストーリーがあっても良いと思う。子ども達は、カード遊びが好きである。名所・旧跡を巡るようなすごろくを作るよりもストーリーがある方がよいと思う。

「魅力発信講座」をするには、講師がいる。地方にいくとその地域のボランティアガイドがいて、説明をして案内をしてくれる。このシステムは素晴らしい。中原区にはまだ無い感じがする。講座を受けて詳しい人を沢山増やすと交流も出来そうである。

橋本委員 散策を行ったりしても、高齢の人しか集まってこない。若い参加者をどうやって増やすかが、課題だと思う。講座の内容も若い人達とか、親子が集まれるように中味を工夫する必要がある。

事務局 魅力発信講座は、一般の方が対象で、中原区の魅力を教える取り組みだと思う。魅力発信講習会の開催というのは、それを地域で展開してくれる人を養成するという意味である。

稲富委員 ここで説明する人を育てるのが目的で、学校の教育課程にそういうのを入れてもらう為に経験者から若い人達に教えるシーンが出てくれば、新・旧世代間交流になる。

事務局 呼びかけ方からレクチャーをする必要がある。

稲富委員 防災の関係で会合を行った時に大学の人達が参加してくれて、ある種の交流だっ

た。例えば町内の何かの取り組みの説明会をするような時に大学と一緒に。学校と一緒に入ってもらって交流の場にしよう。

梅原委員 大学・高校には、歴史研究会があると思うのでそういう人達を説明要員として養成したらどうか。

塚本委員 今まで、こういう講習会は、行ったことがないのか。

事務局 元々は散策ガイドの会がガイドを出来る人達を育てていこうというのが始めたきっかけである。今年は一般の方を対象に行っているが、人を集めるのが大変である。

塚本委員 理想の姿としては、ガイドが沢山出来て、各地域でちょっとしたツアーをプランしてくれるとありがたい。

事務局 今のところ各地域に何人ガイドが出来る人がいるというところまでは、広がりを見せていない。

塚本委員 ガイドをする人がシニアでも全然かまわなくて、その地域でツアーをやる時に若い人が参加してくれれば構わない。

事務局 ガイドも歴史のガイドや、自然のガイドなど。いろんな種類のガイドがあると思う。今やっているのは、歴史にポイントを置いたガイドであるが、地域の活動とかお祭りのガイドがいてもよいと思う。

事務局 講習会も必ずしも1回で済ますわけではなくて、何回かコースがあって、出てきてもらって、知識を吸収してもらいやり方もある。

塚本委員 観光地で地元の方がガイドをしてくれる事は多いが、有償のボランティアではないか。

事務局 場所によると思う。無償でやってくれている方もいるし、交通費のみでやられている方もいる。ポイントになるのは、地域コミュニティを形成するための手法として地域で、魅力を知るような形。町内会などで受けてもらえると思う。

藤嶋副部長 町内会長は忙しいから難しいのではないか。

事務局 地域で展開できそうな方を誘っていく。

梅原委員 講座を開いても来る人がどの程いるか。来ない人をいかに来させるのか。

寺岡委員 子どもを巻き込んでやらないと難しい。等々力工業会のイベントも大体親子対象で行う。親を交えてやるのが良い。

梅原委員 お知らせを配る時に学校経由の方がよく伝わる。

稲富委員 学校経由で子どもに配って、家に持って帰らせる。

事務局 魅力講習会の開催についてはどうか。

稲富委員 魅力講習会は、人の養成が目的なので、習いたい人が集まらないとできないと思うが実際にできるイメージがわからない。

寺岡委員 魅力発見ワークショップを考えたら良いと思う。それを何回か繰り返したら良いのではないか。

稲富委員 子ども達が発表するシーンを組み込むと親もついてくる。学校で行っている自分達の調査の発表でも良いと思う。企業・商店も出てくれると思うし、学校も自分達

の授業の中で作る。

梅原委員 子どもを中に入れるのは、非常に良い方法だと思う。ボーイスカウトでも発表会をやらせると親が必ず出てくる。

事務局 区内の魅力の情報を発表して、子どもも参加出来て、中原区の魅力は何だろうと話し合えるようなワークショップを開催することで、中原区の魅力が見えてくる。それを浮き彫りにしないと講習会を開催するにも難しい部分がある。

稲富委員 交流の場として有効だと思う。

事務局 講習会の開催は、次のステップになると思う。取り組みとしては、カルタ・紙芝居をつくる。次に情報発信について。今まで、チラシを作ったり、発信したりしているが、効果が無い。新しい、市民に出来る情報発信の仕方を検討していく。資料2の3枚目になかはらメディアネットワークとの意見交換やなかはらメディアネットワークの中に情報コーナーを作りメールマガジンを発行していく。

梅原委員 チラシをつくって、区役所や図書館に置いているが、なかなか持って帰ってもらえないので、やり方を考えないといけない。1つの例だとボーイスカウトで行っているのは、入団式とか入隊式の時に一人一人に渡す。区が行う場合には、小学校・中学校の入学式に渡して、全部持って帰ってもらう。チラシは、置くだけでは駄目で、持って帰ることが大事で、持っていかせる工夫が必要。市のイベントとかが、メールマガジンで定期的に来る。参加している色々な団体があるので、出してもいい原稿をメールマガジンに掲載する。自分の関連の原稿が出たら見ると思う。メーリングリストを作って、各団体の主だった人に定期的に配信する。

事務局 区のメールマガジンには登録が必要で、登録すると定期的に配信される。

梅原委員 メンテナンスが大変だと思う。

事務局 行政だけでやるとなると作業的にどうなのかというのがある。

梅原委員 ボーイスカウトの川崎地区協議会には、メンテナンスを専門でやる人が1人いる。ボーイスカウト神奈川連盟のところにも1人専門でいる。中原協議会も対応している。すぐ対応できる状況にしていかないと、削除されてしまう。有料であることをわかってもらう。

事務局 既存のやり方と合せて、中原にはメディアネットワークがあるので、どういう情報の発信の仕方があるのか、企業と連携していく形になると思う。

梅原委員 こういう団体がいつ、こういうことを行うということは、メーリングリストで流してもらおうとよいと思う。チラシのPDFを添付してもらっても良い。あるいは、URLをいれておいてもらうと役に立つ。

反町委員 メディアネットワークとの意見交換、専門家の方にどういうやり方があるのかを聞きたい。メディアネットワークには、沢山の企業が参加しているので、何でも出来る環境があると思うが、それを無料でやっていただけることは無いと思うし、どれくらいの費用でどこまでやって頂けるのかということや、こういうやり方があるというアドバイスをもらいたいと思う。若者や子どもを巻き込んでというところで、興味や関心を深めてもらう為になかはらのオフィシャルのナビゲーターがいたら良いと思う。なかはらの地域の子ども達にナビゲーターとして浸透すれば、その人

が紙芝居を読んでもくれるから参加しようとか、企画のガイドの部分の案内をしてもらうから一緒に歩けるだけで、若い世代を取り込むことが出来るきっかけになるのではないか。

事務局 なかはらメディアネットワークは、地元6社に入って頂いて、地域の情報を発信してもらっている。各メディアそれぞれ社の方針が違うので、当然、各メディアも中原区のどういうものを素材として取り上げるのか異なる。したがって具体的な情報発信の方法について意見をうかがうことは難しいかもしれない。こちらでこういう情報を持っているからこういうものを発信してくれとお願いをする形ならばよいと思う。漠然とどういう形で取り組んだら魅力発信できますかという事を聞くのは難しいのではないか。

塚本委員 6社とは、ある枠が中原区の為に用意してくれという合意なのか。

事務局 現在のところは、協定を結んでいて、各メディアに自由に魅力発信をしてもらっている。来年度以降は、委託することも検討しており、そうなれば一定の枠を行政が活用できる。

梅原委員 プライベートな団体ならいろんな要求が出来ると思うが、いろんな団体がこれを載せてくれと原稿をくれて、載せるか載せないか精査しないといけない。なんの基準でこれは載せなくて、これは、発信するのかというのがあるので難しいと思う。

事務局 ワークショップを開催した結果、情報が集約されるので、その結果を企業に提供して、どういう発信が出来そうかを一緒に考えていく。

梅原委員 原稿を集めるといってもボーイスカウトならこれはやめようという事が出来るが、行政がそれをやるのは難しい。

事務局 情報を集めるワークショップで魅力を出してもらい、セレクトしてなかはらメディアネットワークの方に提案する形が一番自然だと思う。

板倉部会長 なかはらメディアネットワークに参加されている企業の方針がどのように異なっているのかを把握したい。

塚本委員 基本的には、地域メディアなので、地域の魅力を発信していくという大枠では反対しないと思うが、これだけはスペースが取れないとかいうのはあると思う。

事務局 例えば、機関誌だとテーマがあるので、それにのっとったイベントがあれば、発信してもらえる。

板倉部会長 知りたいのは、技術の問題である。こういう風にやると上手くいくとか、最近はこの方が上手く伝わるとか教えてもらいたい。

事務局 どうやったらよいのかと聞くよりも、ある程度集約してこういうのをPRしたいという話が固まれば、技術を含めて情報提供をしてくれると思う。

板倉部会長 我々が一番悩んでいるのは、今までの手法だけでは、伝わらないので、新しい手法をいれて皆さんにPRすることは無いのか。良い案があれば出してもらいたい。

稲富委員 一個一個の魅力のものをどう出すかとすると行き詰ってしまう。もともと区の様々な取り組みがあるのをホームページに更新した時に、登録頂いている方に自動配信すれば伝わる。メーリングリストを活用して登録すると新しい情報が見られるようになるよ。

事務局 一つ出来そうなこととして、メールマガジンを活用する。

稲富委員 ホームページに何々が登録されました、だけでよいと思う。〇〇ツアーを募集いたしますとホームページにアップするとホームページのシステムが自動的に登録されたことが配信される。

梅原委員 メールマガジンの内容といっても、問題があるのは掲載しないというのは必要だからまだ、議論しなくてはいけない。

稲富委員 だから情報発信としては、登録した事だけを流して、そのホームページに何を載せていくかを考える。企業紹介や登録されたということだけでもいいし、行政で行われているイベント・催し物。そういう仕組みをつくっていく。そこに中原ブランドを載せても良い。

事務局 高津区役所と麻生区役所でホームページの新着情報を知らせていて、それを中原区でも行なおうと思っている。なかはらメディアネットワークと協定を交わしているので、例えば季刊誌を発行して、区役所や市民館に置いているとか、Youtubeで「なかはらスマイル」の番組が始まって、今までケーブルテレビでしか見られなかったものをYoutubeで見られるようになったということなどを新着情報としてホームページに載せて、メールマガジンで配信していく。

梅原委員 なかはらブランドが出来れば意味がある。

事務局 どういう情報発信の仕方が有るか、企業の方にも情報提供をしていかないと聞いてもらえない部分もある。そのためにキーになってくるのが、魅力発見のワークショップになってくると思う。どういう風に情報発信していくか、広く話し合う場があって、そこで話された情報をもってなかはらメディアネットワークと話をする。

事務局 中原区では、メディアネットワークを広報するための情報コーナーを5ヶ所設置している。区役所、保健所、市民館と図書館、FM川崎が入っているタワープレイス。さらに東急と交渉をして、コーナーを小杉と元住吉の駅構内に置かせてもらうことになったため少なくとも2か所は増える。

稲富委員 新設されることがホームページに載るのか。

事務局 新設されることが正式に決まれば、載せる。

板倉部会長 メディアネットワークのホームページがある事を知らない人はたくさんいる。

梅原委員 用事があって調べたりするのは、区のホームページや市のホームページだが、用事が無いと見ない。

事務局 区のホームページの一番上にメディアネットワークのホームページが載っているので、クリックしてもらおうとそちらのホームページにアクセスできるように作られている。

稲富委員 メールマガジンが出来て、そのメールマガジンに登録してもらう作業があって、今だと区役所とか保健所とかの切り口で登録するが、例えば僕らだったら、自分達の組合や中原区在住とかそういう形で登録をお知らせするような電子メールとかあると広げられる。

事務局 メールマガジンは、準備をしているところで、スタートすれば、市政だよりの区版などでPRしていく。

稲富委員 我々の手で何かできること、マンションの住民に登録を促すような出せるものが何かあればよい。

事務局 区内の各団体に協力をお願いします。

梅原委員 国際交流センターのホームページには、参加した団体が70団体あるが、ホームページが載っているところをクリックすると飛んでいくシステムになっている。ただし、国際交流センターに登録していないと駄目である。

事務局 区のホームページにも「なかはらっば」というのがあって、クリックすると中原区に登録されている団体のページにアクセスする仕組みにはなっている。

板倉部会長 なかなか更新されていないのが課題である。

事務局 取組の整理だが、具体的に出来るものとして1つ目は、カルタ・紙芝居。子ども達や親子で楽しめるもので、ノウハウのある団体や文化・歴史で活動している団体の情報やイラストを描ける人や学校との連携も考えて、実行委員会を立ち上げて考えていく。2つ目の取組として、中原区の魅力を皆で共有・確認するために魅力を出し合うワークショップを開催したらどうか。魅力を紹介し、子どもにも参加してもらい、魅力を絞り込む。その次に魅力発見講座や中原ブランドに広がっていく。絞り込んだ情報を踏まえた上でメディアネットワークの参加団体の企業と話しい、意見交換をし、有効な情報発信の方法を聞いてみたいと考えている。メールマガジンに多くの人に登録してもらう必要があるので、各団体に協力をお願いします。

事務局 次回運営部会は、12月25日（水）午前10：00からを予定している。

以上